。 読みにくさをかかえる人たち

視覚障害者、知的障害者、外国人、高齢者などが読みにくさをかかえているということは想像できますが、それ以外にどのような人が読みにくさをかかえていると思いますか?

エルディー がくしゅうしょうがい L D (学習障害)、ディスレクシア(読み障害)、A D H D (注意欠如・ たどうせいしょうがい 多動性障害)、自閉症スペクトラム、難聴、肢体不自由、精神障害、など、 さまざまな人が読みにくさをかかえています。

ディスレクシアを知っていますか?

LD (学習障害)のなかでも文字を読むことに、著しい困難がある人をディスレクシア (読み障害) といいます。ディスレクシアの人はどのように読みにくいのか例をあげてみましょう。

- ひともじひともじ よ一文字一文字を読むのに時間がかかる(逐次読み)
- 読んでいるところがわからなくなる
- 特殊音節が苦手 (がっこう、きゅうきゅうしゃ)
- ・ 文章の区切りがわかりにくい(たいことばち→たい/ことば/ち)
- しゅうちゅう つづ ・ 集 中 が続かない
- 勝手読みや飛ばし読みをする

- 文字がにじんだり、歪んだり、記号のように見えたりする
- 漢字が苦手だったり、逆にひらがなが苦手だったりする
- 読めても内容の理解がともなわない
- 文字を取り違える(あ―お、ね―ぬ)
- 言葉の意味を取り違える (バンガロー→ガンバロー)
- 読んだ内容をすぐに忘れてしまう

ディスレクシアは見た旨には困難さがわかりにくいので、家族や先生からも
読みに困難をもつことに気付いてもらえず、読めないのは勉強をさぼっている
からだとか、やる気がないからだ、などと誤解を受けることがあります。その
ため学習意欲をなくし、自信を失い、勉強をあきらめてしまう子どもも少な
くありません。支援によっては充分に能力を発揮することができるのに残念
でなりません。

私たちは読みに困難のある子どもたちへ情報を保障する第一歩として、 読める教科書が合理的配慮として提供されるよう、全国のディジー図書製作グループと協力し、日本障害者リハビリテーション協会をコーディネーターとして、教科書のマルチメディアディジー化に取組んでいます。